

基本方向A「文化創造の基盤づくり」

①「芸術文化を創造する人材、支える人材の育成・支援の充実」

事業名	実績・評価
<p>芸術活動振興事業 助成金</p>	<p>(事業実績など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>申請件数 一般助成：上期67件/下期90件 特別助成：38件 合計：195件</li> <li>交付決定件数 一般助成：上期46件/下期79件 特別助成：23件 合計：148件</li> </ul> <p>(アーツカウンシルからの評価、改善提案など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「多様な人々が参加できる芸術活動支援」枠を設けたことで、さまざまな社会課題に芸術文化を活用していくことが本市助成の特色として打ち出せたことは高く評価したい。</li> <li>申請事業のレベルアップのため、採択者同士の交流会、講座、WS等を公募前に開催してはどうか。</li> <li>助成制度の見直しに向けて、アーツカウンシル部会にWGを設置し、内外の助成金等の調査をふまえ、課題を整理し、検討してはどうか。</li> </ul>
<p>咲くやこの花賞 受賞者等支援事業</p> <p>咲くやこの花賞</p>	<p>(咲くやこの花賞受賞者等支援事業実績など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「咲くやこの花コレクション」パイプオルガンコンサート(H30.11.2 東梅田教会)ほか5プログラム</li> </ul> <p>(咲くやこの花賞実績など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>贈呈式：H31.2.25 大阪市中央公会堂</li> <li>受賞者：(美術部門：画家・絵本作家)ミロコマチコ (音楽部門・ヴァイオリン)浅井咲乃 (演劇・舞踊部門：文楽・三味線)鶴澤寛太郎 (大衆芸能：落語)笑福亭喬介 (文芸その他部門：劇作・演出)横山拓也</li> </ul> <p>(アーツカウンシルからの評価、改善提案など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>贈呈式は華やかな雰囲気があり、受賞者を大阪の新しい文化人として位置付けるセレモニーにふさわしい規模である。</li> <li>コレクションについては、大学や地域団体等の連携企画をするなど発展性や継続性を考えるべき。</li> <li>若手芸術家にとって「咲くやこの花賞」を受賞することは名誉なことであり、その分野の若手芸術家の卵たちを勇気づける効果がある。この賞が若手の登竜門としてさらなる認知度を高め、受賞者の名誉を高めるためにも、若手芸術家が受け取れる広報媒体への情報発信も検討すべき。</li> </ul>
<p>大阪文化賞 大阪文化祭賞</p>	<p>(大阪文化賞実績など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>受賞者：浅井 まかて氏 (作家)</li> <li>授賞式：H31.2.12 大阪シティプラザ</li> </ul> <p>(大阪文化祭賞実績など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>受賞者 【第1部門】坂東竹三郎：七月大歌舞伎「女殺油地獄」の成果 【第2部門】六代目笑福亭松鶴生誕百年祭実行委員会：「六代目笑福亭松鶴生誕百年祭」企画の成果 【第3部門】尾高忠明指揮 大阪フィルハーモニー交響楽団：「ベートーヴェン交響曲全曲演奏会」の成果</li> </ul> <p>(アーツカウンシルからの評価、改善提案など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アーティストが表彰を受けることは、非常に励みになるので両賞とも今後も継続すべきであるが、賞の知名度を向上させるため広報の仕方に工夫を加える必要がある。</li> <li>大阪文化祭賞については、まずは、幅広い世代の意見を反映する審査環境を整えつつ、今後はジャンルの多様化などへの対応も考え、計画的な裾野拡大の工夫が必要である。</li> </ul>
<p>三好達治賞</p>	<p>(事業実績など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>贈呈式：H31.3.22 大阪市中央公会堂</li> <li>受賞者：上手 宰氏 服部 誕氏</li> <li>応募件数：208作品</li> </ul> <p>(アーツカウンシルからの評価、改善提案など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>応募件数が増加傾向にあり、賞への注目度が高まっている。若い世代では詩を楽しむ人が増えてきているので、今後、本事業が果たす役割は大きくなっている。</li> <li>次年度は15回目の節目の年であることから、これまでの賞の歴史を振り返るような取組みや情報発信ができれば、さらに市民に定着した文化事業となる。</li> </ul>

<p>織田作之助賞</p>	<p>(事業実績など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>贈呈式 H31.3.5 綿業会館</li> <li>受賞者及び受賞作品 織田作之助賞：井上 荒野氏「その話は今日はやめておきましょう」 織田作之助青春賞：川勝 浩人氏「ママの犬」 織田作之助U-18賞：織田 香音「夏が死ぬ」</li> </ul> <p>(アーツカウンシルからの評価、改善提案など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>長く続いている賞があることで若者には励みになる。</li> <li>顕彰は質を落とさないことが重要なので質を保つための改善はするべき。</li> <li>記者会見をふくめ受賞者の話す場を活用し、人材育成などに波及していくと良い。</li> </ul>
<p>舞台鑑賞会 (能・狂言・上方芸能)</p>	<p>(事業実績など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>能狂言 「初心者のための能狂言」H31.2.3 大槻能楽堂 「こどもと楽しむ能狂言」H31.2.24 大槻能楽堂：計947人</li> <li>上方芸能 「繁昌亭・春休み こどもらくご教室」H31.3.21・H31.3.23 繁昌亭 「繁昌亭・春休み こどもらくご教室(上級編)」H31.3.24 繁昌亭 「大人のためのはじめての寄席 繁昌亭夜席」H31.9.27・H31.3.16 繁昌亭：計1,067人</li> <li>来場者数(合計)：約2,000人</li> </ul> <p>(アーツカウンシルからの評価、改善提案など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>来場者の満足度が高いプログラムを実施し、初来場者の獲得も一定数に達している。</li> <li>能・狂言・上方芸能は大阪の重要な文化であり、今後も継続して行うべきである。そのためには、現状を把握し、効果的な手法を考える必要がある。</li> <li>より多くの関心を集めるためにも、次世代への働きかけは非常に重要である。今後子ども向け、及び学校等での鑑賞機会の提供を継続し、さらなる裾野拡大を図るべきである。</li> </ul>
<p>舞台鑑賞会 (演劇)</p>	<p>(事業実績など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「トム・プロジェクト プロデュース『黄色い叫び2019』」H31.3.29・3.30 大阪市中央公会堂</li> <li>来場者数(合計)：約900人</li> </ul> <p>(アーツカウンシルからの評価、改善提案など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年度から開始した事業ということもあり、大阪市主催の演劇鑑賞事業について演劇関係者の認知度はまだまだ低い。事業目的に合致したスケジュールの検討及びより多くの事業者がプロポーザルに参加できるよう情報発信が必要である。</li> <li>大阪で活動が盛んな小劇場で活躍する劇団や演劇人を起用するなど、文化振興計画の「創造する人材、支える人材の育成・支援」が効果的に実現できるように取り組んで欲しい。</li> <li>文化芸術に親しむきっかけとなる事業を実施する場合には、子育て世代など対象を絞った事業とすることでより波及効果が見込まれる。</li> </ul>

## ②「芸術文化を将来へ継承発展させる青少年の育成」

事業名	実績・評価
<p>中学生が参加するコンサート</p>	<p>(事業実績など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「はじめましてオーケストラ」(H31.3.17 ザ・シンフォニーホール)</li> <li>参加中学生数：470人</li> <li>来場者数：853人</li> </ul> <p>(アーツカウンシルからの評価、改善提案など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日頃から吹奏楽に励む中学生が、一流演奏家の指導を受け、プロオケと舞台で共演することにより、演奏技術の向上、音楽への興味の深化、地元のオーケストラや音楽ホールへの親しみ感が期待できる事業である。このような規模の事業を毎年継続することで、青少年の吹奏楽のクオリティ向上のみならず、オーケストラの魅力を広く知らしめ、音楽交流人口の増加に寄与する等の波及効果が期待できる。</li> <li>チケット価格が低廉で、子ども連れでも気軽に来場しやすいプログラムであり、家族ぐるみで音楽を楽しめる機会を提供できている。また、来場した子どもが、プロオケと共演する中学生の姿をみて、吹奏楽に興味をもつ契機となることも期待できる。</li> </ul>

<p>区と連携した芸術文化青少年育成事業</p>	<p>(事業実績など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「伝統芸能を体験してみよう”能・狂言”」(北区)ほか17区で実施</li> </ul> <p>(アーツカウンシルからの評価、改善提案など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度に最終年度を迎えるが、3年間の成果をきちんと報告書にとりまとめ、庁内のみならず、市民にも情報提供する必要がある。</li> <li>・事業終了後の各区へのアフターフォローとして、情報提供や相談等の支援を継続していく必要がある。情報提供には、どのような項目が必要か、支援に必要な基礎知識をどう担保するのかも明確にすめるとよいだろう。</li> </ul>
--------------------------	---

### ③「芸術家等が活動に取り組みやすい環境の整備」

事業名	実績・評価
<p>芸術創造館管理運営</p>	<p>(事業実績など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・演劇練習室稼働率81.0% 音楽練習室59.7%</li> <li>・自主事業 芸創講座(専門講座)16回、芸創テク(インターンシップ)33回、芸層サロン30件、スタジオライブ4回、DOORS(ワークショップフェスティバル)</li> </ul> <p>(アーツカウンシルからの評価、改善提案など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・稼働率は健闘しているといえる。経年劣化等の施設の不調は今後も起こりえるため、修繕等の対策準備を計画的に視野にいれるべきだろう。</li> <li>・結成10年未満の劇団の状況を把握しネットワークを持っており、演劇のインキュベーション施設としての責務を果たすべく努力をしている。この特徴をさらに活かせるような、事業内容のブラッシュアップ(芸術創造館から巣立った新人賞等の受賞者や、活躍目覚ましい劇団の見える化(アーカイブ等)や、劇団等の活動課題をフォローアップしていくアートマネジメント講座や交流会の開催等)を行うと良いだろう。</li> <li>・大阪市内外の他文化施設との連携や各劇団とのネットワークがあり、広報協力(チラシの挟み込みなど)を行い、適宜相談業務を行っている。そのような連携を評価指標に反映していき、さらなる努力を促すことで芸術創造館のさらなる認知度アップにつながる。</li> <li>・大阪市文化課の演劇・音楽等の関連事業と積極的に連携して効率的に事業を行い、相互の事業内容の向上に努めるべきだろう。</li> </ul>

### ④「貴重な文化資源の保護・保存・継承」

事業名	実績・評価
<p>文楽を中心とした古典芸能振興事業</p>	<p>(事業実績など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文楽公演「中之島文楽」(H30.10.5~10.7大阪市中央公会堂)約1,200人</li> <li>・ミニ公演・文楽に関するWEBフリーペーパーでの情報発信など 約12,800人</li> <li>・WEBアクセス数 約41,000人</li> <li>・来場者へのアンケート結果:「次は文楽劇場で文楽を鑑賞したい」と回答した人数約95%</li> </ul> <p>(アーツカウンシルからの評価、改善提案など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4年間にわたり事業を実施してきたので、これまでの成果をきちんと総括し、さらに事業をブラッシュアップする必要がある。将来的には、大阪発祥の古典芸能である文楽を、市民が自分たちの誇りである意識できるよう、広報の仕方や事業の実施体制含めて、今後の業展開を工夫する必要がある。</li> </ul>
<p>舞台鑑賞会 (中高生のための文楽 夏休み親子ペア文楽)</p>	<p>(事業実績など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中高生のための文楽鑑賞教室 H30.6月 国立文楽劇場 参加者数:約3,996人</li> <li>・夏休み文楽特別公演「親子劇場」 H30.7月~8月 国立文楽劇場 参加者数:約2,080人</li> </ul> <p>(アーツカウンシルからの評価、改善提案など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の授業の一環として文楽を鑑賞できる機会を継続して提供することにより裾野の拡大につながるため、希望する児童・生徒が多くてもできる限り鑑賞の機会を確保する工夫が必要である。</li> <li>・夏休み親子文楽は演目も子ども用のものにしており、文楽になじむためにもより多くの親子で鑑賞してほしい。私立の学校にも情報提供するなど、広報に工夫を加える必要がある。</li> </ul>
<p>中央公会堂管理運営</p>	<p>(事業実績など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集会室等の利用率 69%</li> <li>・全国的な又は国際的な学会等大阪の都市魅力の発信に資する催しの誘致件数 10件</li> <li>・ガイドツアーの実施、レストランとの連携、ドラマ撮影等のロケ協力など中之島エリア一体の賑わいに貢献</li> </ul> <p>(アーツカウンシルからの評価、改善提案など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知度の高い施設でもあり、中之島エリアの施設の中で良い役割をはたせるようにしていくと良い。</li> <li>・公立文化施設としてシアターアクセシビリティに関してイニシアティブを持ち、関連部署と連携を持つことが望ましい。</li> <li>・指定管理者のスタッフ研修のノウハウなどを共有できる場があるとさらに良い。</li> </ul>

中央公会堂100周年 記念事業	<p>(事業実績など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メインプログラム来場者数（H30.11.16～11.18）のべ約12,000名</li> <li>・市事業や民間企業等との100周年をテーマとした連携企画（14件）を実現し、気運醸成につながった。</li> <li>・他都市とのコラボレーションや施設の利用者による100周年を祝う事業も多数行われ、行政・民間・市民全体で中央公会堂の魅力を発信する機会となった</li> </ul> <p>(アーツカウンシルからの評価、改善提案など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・財源を寄附で担った点も成果といえる。</li> <li>・次年度以降の施設利用や事業に波及するつながりができたことも重要。</li> </ul>
--------------------	---

## ⑤「芸術文化活動を支える寄附文化の醸成」

事業名	実績・評価
芸術・文化団体 サポート事業	<p>(事業実績など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H30年度実施分 対象団体：23団体 寄付金額：10,483千円</li> </ul> <p>(アーツカウンシルからの評価、改善提案など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・芸術・文化団体の活動を促進するには、当事業を発展させていくべきなので、今後の取組の方向性として、当事業の認知度を高め、寄附件数を増やしていくことが妥当だと考える。</li> <li>・応援したいが、手続きが煩わしいと寄附に対して消極的な方々の印象を払拭するために、ふるさと納税ワンストップ特例制度などの簡単・便利であることのPRを盛り込んではどうか。</li> <li>・寄附意識への機運を高めるために、ホームページに寄附した方のコメント・メッセージを掲載するなど、何か仕掛けを考えてみてはどうか。</li> <li>・登録団体ごとで、モチベーションに違いがあるように感じる。例えば公演や活動の会場でチラシを配架するなど団体自身による取り組みを進め、全体のモチベーションの底上げにつなげる仕掛けを検討してはどうか。</li> <li>・ポスター・チラシのデザインは良くなったので、さらなる認知度向上と寄附への関心を高めるため引き続き広報・情報発信に取り組んでいくこと。</li> </ul>

## 基本方向B「都市のための文化」

### ①「大阪が誇る上方伝統芸能を活用した魅力発信」

事業名	実績・評価
伝統芸能を活用した 大阪の魅力開発促進 事業	<p>(事業実績など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モデル公演の実施（3回・アンケート等のサンプル数：843名）</li> <li>・旅行事業者・有識者等で構成される関係者会議の実施（4回程度）</li> </ul> <p>(アーツカウンシルからの評価、改善提案など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4か年計画の事業の後半に入ることから、アンケートにより収集したモニターの意見の集計や分析を、全国的な動向と照らし合わせて、焦点を絞り方向性を定める必要がある。</li> <li>・興行ベースで成り立たせることができるような事業スキームを立てることが必要であり、大阪の同ジャンル他事業をリストアップし、差別化を確認してすすめると良いだろう。</li> </ul>

### ②「芸術文化の魅力を、観光資源及び経済の活性化に活用」

事業名	実績・評価
アジア映画祭	<p>(事業実績など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アジア映画祭（開催期間：H31.3.8～3.17） 上映作品数：51作品（17の国と地域の作品） ・開催会場：阪急うめだホール、ABCホール、シネ・リーブル梅田 他</li> <li>・映画に関する人材育成に寄与する講座・ワークショップ</li> <li>・プレスセンターを福島区中之島リバーサイドエリアにあるPINEBROOKLYNに設置</li> </ul> <p>(アーツカウンシルからの評価、改善提案など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の事業展開を検討する時期に来ている。その方向性に沿った事業をプロデュースできる人材も必要ではないか。映画に積極的な国もあり、ファンディングの可能性はある。</li> <li>・また、ビジュアルイメージも国際的なクリエイターの起用を考慮してみるなどレベルを上げる必要がある。</li> <li>・大阪にはアジアをルーツとした子供も多く、子供向け映画も加え家族で行けるような作品も加えてみたり、さらに、若いボランティアのパワーを活かすため、今後の映画祭を運営できるプロデューサー候補として育成する等にも取り組んではどうでしょうか。</li> </ul>

### ③「都市全体を活用した芸術文化活動の展開」

事業名	
大阪クラシック	<p>(事業実績など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催期間：H30.9.9～9.15</li> <li>・主な会場：大阪府中央公会堂・フェスティバルホール・御堂筋や中之島地区のオフィスビルのロビー 等</li> <li>・出演楽団：大阪フィルハーモニー交響楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団、大阪交響楽団、日本センチュリー交響楽団 Osaka Shion Wind Orchestra</li> <li>・公演数：81公演</li> <li>・来場者数(合計)：約42,000人</li> </ul> <p>(アーツカウンシルからの評価、改善提案など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・街なかで、質の高い演奏を気軽に鑑賞できる機会を提供しており、聴衆層も、ビジネスパーソン、リタイヤ層、親子連れ、観光客など多様であった。障害のある子どものための貸切公演が実施されたことは、多様な聴衆層のアクセシビリティの観点からも有意義である。</li> <li>・多くの会場で外国人観光客の姿が見受けられており、広報の効果が出ているものと考えられる。今後も、英語等での情報発信(観光情報、イベント情報からのリンク等)を積極的に行い、この時期に音楽フェスティバルがあること、ひいては大阪が文化的な街であることをうまくアピールできると良い。</li> <li>・音楽監督・大植氏が出演する大フィルの有料公演では、大フィルと大植氏の信頼関係の深さが感じられ、大阪クラシックの聴衆の成熟度も知ることができた。ただ、在阪で活躍するプロオケ、吹奏楽団が「5団体」あることをうまく紹介し、アピールできるように、公演や広報などを工夫する余地がある。</li> <li>・大阪クラシックのロゴマークが定着してきている。ロゴマークの他にテーマカラーを設定して組合せることができれば一層アピールを図ることができるのではないかと。</li> <li>・大学にボランティア募集の協力を行う際は、昨年度のパンフレットを同封して活用してもらえば、ボランティア活動のイメージが描きやすく、学生も応募しやすくなるのではないかと。</li> </ul>

## 基本方向C「社会のための文化」

### ②「地域の特色ある芸術文化活動への取組み・支援」

事業名	
地域文化事業	<p>(事業実績など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福島区「ふくしま水辺フェス」 ほか12区で開催</li> </ul> <p>(アーツカウンシルからの評価、改善提案など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各区の特性を生かして毎年度実施している恒例の事業が多く、地域住民が気軽に芸術文化に触れられる機会として定着していることから、今後も継続実施できる事業スキームが必要である。</li> <li>・区連携事業で培ったノウハウ等との連携も視野に入れる。</li> </ul>
文学碑記念の集い 文学碑維持管理	<p>(文学碑記念の集い事業実績など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「第39回文学碑記念の集い」(H30.7.7 太平寺)</li> <li>・参加者数：70人</li> <li>・出演者：森本薫・チェロコンサート</li> </ul> <p>(文学碑維持管理事業実績など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・西区「梶井基次郎」碑ほか1件の修繕</li> </ul> <p>(アーツカウンシルからの評価、改善提案など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文学は演劇と相性が良いので、2部の演目に朗読劇など検討してもよい。</li> <li>・若手が来場するよう広報を工夫し、演劇関係者に来場を呼びかけてもいいのではないかと。</li> </ul>
クラシック音楽 普及促進事業	<p>(事業実績など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「にしなりクラシック～北欧の調べ～」 (H30.10.20 大阪フィルハーモニー会館 来場者数(合計)353人)</li> <li>・大阪フィルハーモニー会館 市民利用割合45%</li> </ul> <p>(アーツカウンシルからの評価、改善提案など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪フィルハーモニー会館の貸館事業、クラシック演奏の公演とも目標を上回った成果が出せている。特にクラシック演奏公演については、市外からの来場者も増加しており、演奏家を通じた西成区における大阪フィルハーモニー会館の認知度のアップにも着実に繋がっている。</li> <li>・今後、こうした成果を継続していくためにも、運営主体が世代間交流や、ジャンル間交流等をより意識して、若いプロデューサー等が育成される環境を整えることが望ましい。</li> <li>・多様な人々の活用を促進するために、館のバリアフリー化をはじめ、シアターアクセシビリティへの意識向上などを、計画的に模索し始める時期であろう。</li> </ul>

<p>現代芸術振興事業 (プレーカープロジェクト)</p>	<p>(事業実績など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 通年事業 旧今宮小学校「作業場」・「新・福寿荘」・「西成・子どもオーケストラ」</li> <li>・ 地域コーディネーターの発掘育成など</li> </ul> <p>(アーツカウンシルからの評価、改善提案など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 西成区山王地区における継続した事業実施による成果が確実に認められる一方、15年以上にわたる事業の成果を西成区内外に発信するとともに、文化振興計画の「社会のための文化」として、「地域の特色ある芸術文化活動への取組み・支援」に寄与できているかという観点から事業を振り返る時期に来ている。</li> <li>・ これまでの15年以上にわたる活動の経過や成果をアーカイブとして取りまとめ、事業を総括していく必要がある。これまでの活動事例を広く市民に積極的に情報発信して、コミュニティの育成・再構築や文化の普及などの事業が培ってきたノウハウを、市民が活用できる環境・仕組みが作られることを期待する。それによって、大阪市が事業を長年継続してきた意義への理解が深まり、さらには大阪市の文化力を対外的にもアピールできる機会になるであろう。</li> <li>・ プレーカープロジェクトから派生したプレーカーコレクティブのファッションブランド「NISHINARI YOSHIO」が、大阪を代表する商業施設の一つである阪急メンズ館で公開されたことは、大阪の下町のファッションセンスが、現代美術家の活動を通して、日本のファッション界でも評価されるという機会をつくり、大阪の下町の魅力向上に寄与したといえる。</li> </ul>
-----------------------------------	---